

報道発表資料
平成30年12月21日
国立国会図書館

講演会「中国の児童文学者 曹文軒—私の人生、私の文学」 を開催します。



国立国会図書館国際子ども図書館は、2016年国際アンデルセン賞作家賞を受賞した中国の代表的児童文学作家、曹文軒（そうぶんけん）氏を講師に招き、講演会を開催します。

講演会では、自身の子ども時代の経験から困難に直面する子どもたちを力強い言葉で捉え、子どもの世界のリアリティを尊重する中国文学の伝統を形作ったと評価される曹文軒氏に、自身の人生と文学についてお話しいただきます。また曹文軒氏の講演に先立ち、中国児童文学研究者である成實朋子（なるみともこ）氏に現代中国児童文学と曹文軒氏の功績についてお話しいただき、曹文軒氏の文学についてより理解を深めます。参加は無料です。ぜひご参加ください。（曹文軒氏の講演は中国語（逐次通訳有））

【お問合せ先】

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課広報係 03-3827-2041(直通)

【開催概要】

講師	曹文軒（そうぶんけん）氏（児童文学作家、北京大学教授） 成實朋子（なるみともこ）氏（中国児童文学研究者、大阪教育 大学教授）
日時	平成 31 年 1 月 20 日（日） 14 時～16 時 30 分
場所	国際子ども図書館 アーチ棟 1 階研修室 1 (東京都台東区上野公園 12-49)
対象	中学生以上（定員 130 名）
参加費	無料
申込み方法	国際子ども図書館ホームページ上の申込フォームより申込み (先着順) (http://www.kodomo.go.jp/event/event/event2019-01.html)

【曹文軒氏略歴】

1954 年、江蘇省出身。児童文学作家、北京大学教授、北京作家協会副主席、児童文学委員会委員、中国作家協会魯迅文学院客員教授。2016 年国際アンデルセン賞作家賞受賞。主な著作（訳書）に『サンサン』（曹文軒著、中由美子訳、和歌山静子絵、てらいんく、2002）、『よあけまで』（曹文軒著、中由美子訳、和歌山静子絵、童心社、2002）、『はね』（曹文軒作、ホジェル・メロ絵、濱野京子訳、マイティブック、2015）、『とおくまで』（曹文軒文、ボーデ・ポールセン絵、いわやきくこ訳、樹立社、2018）等

【成實朋子氏略歴】

中国児童文学研究者、大阪教育大学教育学部教授。大阪教育大学教育学研究科修士課程修了。主な論文に「中国の子どもたちは何を読んでいるか」『中国児童文学』No.24, 2016、「東アジア児童文学のゆくえ」『日本児童文学』No.64, 2018（連載）、『中国児童文学』No.22, 2013 等

国際アンデルセン賞 (Hans Christian Andersen Awards) とは？

1953年、国際児童図書評議会 (IBBY) により創設された子どもの本の国際的な賞です。その選考水準の高さから、「小さなノーベル賞」ともいわれ、世界中の児童文学の質の向上にはかり知れない影響を与えています。

2年に1度、児童書の分野で卓越した業績をあげた現存の作家及び画家に送られます。日本からは2018年に、『魔女の宅急便』などで知られる角野栄子氏が受賞しました。

○国際アンデルセン賞 (日本国際児童図書評議会ホームページ)

<http://jbbby.org/ibby/activities02.html>

曹文軒氏とその作品について

曹文軒氏は江蘇省塩城の貧しい水郷地帯で生まれ育ち、その作品の多くは、子ども時代の経験を元に、困難や悲劇に立ち向かう子どもを描いたものです。

『サンサン』では、草ぶき屋根の学校に通う少年サンサンを主人公に、いじめや死、貧困、別離といった困難に遭遇する人々を描きました。そのあとがきでは、現代の子どもと昔の子どもでは生活内容に変化はあるが、子ども達が感動するものはいつの時代も不変であるという自身の創作に対する考えを述べています。



このような創作姿勢のもと生み出された作品は、昔の農村を描いたものであっても現代の読者の共感を呼び、中国では教科書に採用され、イギリス、フランス、韓国など世界でも読まれています。

その作品世界は広がり続け、障害のある子どもを描いた作品やファンタジーも発表しています。絵本の文章も手がけ、2014年に国際アンデルセン賞の画家賞を受賞したホジェル・メロ氏と合作で、自分が何の鳥の羽なのか探し求める羽の絵本『はね』を発表しました。